

♪ みんなにこにこ！笑顔でつながる おてつだい♪
チームみねっぴ～の とくべつしえんだより



♪ 一つ一つの「経験」を一人一人の学びに♪

～ 「経験したこと」を学びに変えていくための「前向きな対話」を大切に ～

残暑厳しい折ですが、皆さま、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。

各御家庭で過ごされた子どもたちの夏休み。子どもたちは、夏休みの「経験」を通し、それぞれの夏の思い出をつくることができたでしょうか。

その思い出の中には、「毎日続けることができた経験」「楽しみなことに参加できた経験」「大変な思いをしたからこそ気付いた経験」「あたりまえのことをあたりまえに行動できた経験」「親子で楽しみながら取り組めた経験」などもありましたでしょうか。

この夏に「経験できたこと」をいかし、子どもたちにとっても、わたしたち大人にとっても、どんな経験からも学んでいける「前向きな対話」を大切にしていきたいものですね。

夏休み明けからの学校生活でも、お子さまの「強み」や「持ち味」をいかし、「苦手さは、工夫しながら生活できる力」を身につけられますよう、保護者の皆さまとの「前向きな対話」を大切にしながら、峰小オールスタッフ協力体制で、子どもたちの支援を重ねていきたいと思います。

経験を学びに変えるための「前向きな対話」(例)

【自分の苦手さに気づき、どうすればよいかを見つけるきっかけづくりにする対話】

「〇〇が苦手なタイプだって気付いたね。」「今度は、うまくいくやり方を一緒に考えよう。」

【経験したことを他に関連付けや状況予測につなげる対話】

「こういうときは、どうすると良かった？」「あのときは、どうなった？」「この後どうなる？」

【今の子どもが取り組んでいることを話題にし、次につながる意欲を引き出す対話】

「～をしていることは、あたりまえのことではないよ。」「あたりまえのことを続けられることが、すばらしい。そこが、あなたのいいところ。」「どんどんすてきになるね。応援しているよ。」

【認め励まししながら、自覚させたり自己決定を促したりする対話】「うまくいったのは、なぜ？」「これは、〇〇だったけれど、〇〇ができるようになったね。」「次はどうしてみる？」

ただ経験するだけでは、「経験から学ぶ」ことが難しい子どもたち。「経験したこと」に「状況理解のための解説や理由をそえる」「よさの価値づけをする」「他へ応用できるよう関連付けて広げる」などの「前向きな対話」で、子どもたち自身のより深い学びへとつなげましょう。

